

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-5 農山漁村の多面的機能の維持・発揮
---------	-----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農村整備課長 中藤 直孝	電話番号	0852-22-5176
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	多面的機能支払交付金事業		
目的	(1) 対象	農村集落を中心とした地域住民	
	(2) 意図	農業・農村の有する多面的機能を維持・発揮するために、地域住民が一体となった農地・農業用水等の地域資源や農村環境を守る地域共同活動を推進する。	
事業概要	農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るため、農地・水路・農道等の地域資源の保管理や長寿命化、農村環境保全等のために地域共同で行う活動に対して支援を行う。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 地域共同で農地維持活動に取り組む農用地面積の累計	目標値		22,900.0	23,200.0	23,500.0	23,800.0	ha
		取組目標値						
	式・定義 多面的機能支払制度の農地維持支払交付金に取り組む面積	実績値	22,504.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	1,284,444	1,313,273
うち一般財源(千円)	420,010	429,501

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・本事業は平成26年度に制度改正され、平成27年度からは法制化された。  
 ・取組面積は年々増加しているが、県全体の農振農用地面積に対して約55%の取組み状況となっており、更なる農用地等の維持のために取組面積の拡大を図る必要がある。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

・取組面積の拡大に向けて、次の取り組みを実施  
 ①平成27年度の法制化に伴い、交付ルートが県協議会から市町村に変更になり、新たな推進体制を確保するために市町村等と調整を重ねた。  
 ②新規参入組織に対して説明会を開催し、また活動組織に対して相談会を開催して問題点を聞き取りし、円滑な活動ができるよう指導した。  
 ・その結果、以下の成果があった。  
 ①市町村等と調整を重ね、役割分担を明確にして推進体制が構築できた。  
 ②活動組織の不安を払しょくでき、取組の拡大(約800ha増)に繋がった。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」  
 ・高齢化・人口減少により営農の継続が困難となっている。また地域をまとめる役員不足や事務作業が負担であることにより活動の継続が困難となっている組織がある。

②困っている状況が発生している「原因」  
 ・高齢化・人口減少が主な原因と思われる。  
 ・また、1集落単位の小規模な組織が多いことから、組織や活動の維持・継続に苦慮していると思われる。

③原因を解消するための「課題」  
 ・小規模な組織が多いことから、組織の合併連携・広域化や事務の外部委託等を説明し新たな組織体制を構築していく必要がある。  
 ・また、活動計画(5か年)の終期を迎える組織に対して、相談や指導を行い不安を払しょくする必要がある。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・本事業の取組面積を維持・拡大させることは、農地や水路、農道等の地域資源を適切に保管理し、農業農村の有する多面的機能の維持・発揮につながるため、今後も推進していく。  
 ・そのためには、未取組地域へ事業制度や取組事例等をPRし新規の取り組みを図るとともに、現在実施中の組織が活動を継続していけるよう組織の合併連携・広域化や事務の外部委託等について説明し、問題解決に向けて県、市町村、協議会が連携して活動組織を支援していく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価(任意記載)